

平成23年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 記録

平成23年8月2日(火) 15:00～17:00
県庁4階 特別会議室

< 審議会委員 >

菅野 仁委員長，青木 栄一副委員長，西野 美佐子委員，山口 一美委員，奈須野 毅委員，
伊藤 宣子委員，高橋 泰委員，及川 英之委員，堀籠 美子委員，八巻 賢一委員，
氷室 眞也委員，磯原 眞行委員，小野寺 千穂子委員，渡邊 幸雄委員
(欠席：伊藤 吉里委員，高橋 睦磨委員)

< 県教育委員会 >

小林教育長，高橋教育次長，鈴木教育企画室長，熊野義務教育課長，氏家高校教育課長

(事務局)

(公開の確認)

(委員委嘱・辞令交付)

(教育長 あいさつ)

(事務局)

(県教育委員会の主な出席者紹介)

(審議会概要説明)

(委員長)

(委員長 司会進行開始)

(事務局)

(資料確認)

(教育長)

(諮問)「宮城県立高等学校入学者選抜について」
平成25年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について(別紙1)

(教育長退席)

(委員長)

事務局から報告 から報告 について説明願う。

(事務局)

報告 平成23年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について
(事務局より，資料に基づき，内容説明)

(委員長)

報告 について，本年度の印象を中学側からお聞かせいただきたいが，高橋委員
いかがか。

(高橋委員)

中学校全体の意見については把握していないが，本校のレベルから判断すると，
妥当であったと判断する。ほぼ例年と同じ傾向であり，そのことが正規分布に表れ
ていると考えている。

(委員長)

他の委員の方からは何かないか。では，先程も震災対応についての話があったが，
震災の中での入試処理という御苦労があったかと思う。その点について事務局の方

で何か報告することがあればお願いしたい。

(高校教育課長) 震災のさなかの高校入試だったが、3月9日の学力検査日の地震の際には、すぐに各学校と連絡を取り合い、どれくらいの時間中断したのか、その結果を収集し、すぐに検査時間の延長と、昼休みで中断時間を吸収できないかといった対応を行った。各学校では、検査中に地震が起こることも想定していたので、適切に対応することができ、各学校の協力を感謝したい。

11日の本震では、各学校の入試事務のさなかであり、電源がストップしたことや、携帯電話の電池切れで、なかなか県庁と学校の連絡が取りにくく情報収集に苦労したが、いろいろな手段を用いてその日の夕方までには安全確認ができた。

合格発表日を遅らせることでなんとか発表にこぎつけたが、各学校では日程的にかなり苦労されたと思う。中学生への入試結果の連絡は、高校側も努力をしたが、中学校にはなお一層の御協力をいただき保護者と生徒に伝えることができた。第二次募集を延期、通信制の臨時募集を含めて4月いっぱい新入生への対応を行い、各学校で入学準備に向けてスケジュールを調整した。

さらに、福島県や岩手県と連絡を取りながら、被災3県の入試事務が円滑に行えるように情報交換をしている。発表後被害の状況が明らかになるにつれて、実際に合格を手にしながらか、残念ながら亡くなった方もいらっしゃるなど、心痛な思いで入試事務を行った。あとは実際に入試事務に当たられた現場の高校の校長先生や中学校の校長先生からお話をいただければと思う。

(委員長) 現場の対応ということで何かご報告いただけることはあるか。

(伊藤委員) 公立学校の入試発表の延期に伴い、私立学校の二次手続き日をどうすればいいのかという問い合わせが入った。教育委員会の方でも私学に関して、連携配慮していただいたことに感謝申し上げたい。このような連携のおかげで、私学の対応も遅れることなく公表することができた。

(委員長) 次に報告 について事務局からお願いしたい。

報告 平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
(事務局より、資料に基づき、内容説明)

(氷室委員) 資料23ページの東日本大震災の被災生徒に係る臨時的処置について、被災状況副申書の提出に関して、具体的に被災生徒のどのような状況の時に、この被災状況副申書が提出されるのか、どういうことを想定しているのか教えていただきたい。

(高校教育課長) 高校入学後の配慮が必要な場合を想定している。被災の状況など学校生活を送る上で、注意を払ってもらいたいというような、被災状況の説明、家庭状況、生徒の状況の説明を中学校の校長先生が考えた場合に、中学側が高校側に伝える一つの方策ということである。被災直後の状況説明というよりも、まだ被災地も大変な状況にあり、生活基盤も失い、いろいろな状況にある生徒を想定している。被災状況副申書は、阪神淡路大震災も参考にしているが、必ず出さなさいという性格のものではない。ぜひ中学校側から高校側へ伝えておきたい場合の手段として考えている。調査書にも、その他の事項を記載する欄はあるが、それでは狭いということを踏まえての対応である。

(西野委員) 今の話は、中学校側からの被災状況副申書だと思うが、5番目の転入学の弾力化でも、今年度と同様に行う旨の報告があった。今回すでに高等学校に入学して生活している子供たちでも、転入学をしなければならない状況もあったかと思う。県内の高等学校でそのような生徒がどれくらいいるのか、またどのような配慮をしたの

か、追加してお話をしていただき、どのような弾力的な措置を取ったのか、あるいは今後取る予定なのか教えていただきたい。

(高校教育課長) 転入学については、対応としては入学前に各学校で行い、5月、6月、7月に1回以上やっていただけるように各学校に要請した。その結果、転入学が行われ、例えば県外からの転入学は、現在のところ78名、逆に宮城県から県外へもたまたま同じ数の78名という状況である。県内から県内への転入学については、155名である。

2つ目は弾力的な対応であるが、委員の学校でも転入学を行った学校があるかと思う。簡便な方法で受け入れるように、例えば調査書と面接、作文等でできるようなかたちで、学力検査まで必ず課さなくてもよいというような、被災した生徒の状況を見ながら弾力的な配慮を行ったというのが一つである。それから、各学級は40人定員となっているが、このようなケースでは40人を若干超えても構わないとした。かつて45人定員ということもあったので、なんとか御配慮いただいて何校かでは40人を超えて受け入れていただいている学校がある。実施された校長先生がいれば、その状況をお話したい。

(氷室委員) 1名県外の福島・相馬高校に合格された生徒を転入学で入れた。弾力的とは言えないかもしれないが、福島県の入試の成績をもって合格とした。

(堀籠委員) 副申書は平成24年度入試だけか、それともしばらく続けるのか。現段階で考えていることがあれば教えていただきたい。

(高校教育課長) 生活基盤の復旧等を踏まえ、いつまで行かうか事務局で検討していきたい。今年度限りの対応ではないだろうと考えている。

(伊藤宣委員) 被災状況は地域によって違うと思うが、早い段階で被災した中学校複数を訪問させていただく機会があったが、学習環境は大変だなと見聞してきた。被災状況副申書に入るかどうか分からないが、教育環境の違いによる配慮、受験生の学力問題はどうかだろうか。

(高校教育課長) 発災日が3月11日であったことから、前年度末の部分を4月になってから学校再開後に補習等を行っていると聞いている。苦労しながら、学習に関して各教育委員会、中学校で行っていると伺っている。

(委員長) 被災による学力格差への対応というのは、少し難しい問題があると思うが、この点についてのご意見はいかが。

特になければ私の方から事務局に、お尋ねしたいが、震災枠のようなものはあるのだろうか。

(高校教育課長) 震災枠というのは、定員の内側に一定数の枠を確保するようなイメージだと思うが、現段階ではそのことについては、考えていない。

震災からの月日を見ると、各学校、各生徒の頑張りを反映できるような選抜になると思う。

(小野寺委員) 震災枠ということだが、石巻地区の12校はかなり大きい被害を受けた高校がほとんどであるが、今年の入試の判定会議の時に、その辺のところをかなり考慮した。

本校も従来 of 選考会議で進めていって、最後のところで中学校の現状、そうした生徒が今後どういう高校生活を送るべきかと考えた時に、そのようなところを配慮して判定会議を行った。石巻地区の高校はだいたいそのようにしたと聞いている。

- (堀籠委員) 教育委員会としては、時数を確保するという事で終業式、始業式を調整している。3月11日は中学校が午前中が卒業式で区切りをつけていた。市町村教育委員会で異なりますが、大和町では中学生の夏休みは7月21日から8月18日とし、8月19日を第二学期始業式とした。
- (教育次長) 今年の高校入試については3月11日に震災があって、そのあと各学校の総合的な判定において小野寺委員からあったような選抜を行ったものと考えている。
しかし、堀籠委員からあったように、4月以降、市町村委員会及び中学校がいろいろな努力をされ、さらに受験生本人も高校入試に向けていろいろと努力をしているところである。
そのような中で来年春の入試に関して新たに震災枠を作ったり、地域によって特段の配慮を行うことは、そのような努力をある意味考えないということになる。来年春の入試に関して、いろいろ改善する部分は改善するが、選抜における特段の配慮と言うことはやらないで、同じラインで、いろいろな地域で工夫をして努力してきたという部分をしっかり見るような形で対応したいと考えている。
- (委員長) 報告事項、については以上の議論にしたいと思う。
- (休憩)
- (委員長) 次に報告 について事務局からお願いしたい。
- (事務局) 報告 平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
(事務局より、資料に基づき、内容説明)
- (委員長) 報告 について、何か質問・意見はないか。
- (奈須野委員) 親としての意見だが、生徒会の役員をしていたり、部活動のキャプテンをしていることが「出願できる条件」に入っていると聞いている。この「出願できる条件」が出てくることによって、学校において役を重複しないようにと中学校側に保護者からの意見があると聞いているが、どうなっているのか教えていただきたい。
- (高校教育課長) 中学校の教育課程外での活動や部活動など、頑張ったところは高校側も評価するが、「出願できる条件」の中で生徒会等の具体の役職名を条件としている学校はない。
- (委員長) このことに関して何か中学校からあるか、高橋委員いかがか。
- (高橋委員) 役職を交代するというようなことは、中学校では話題にもなっていない。数日前に入学者選抜概要一覧をHPで見たが、全体に関してはなんともコメントしようがない。個人的には学習に関する「出願できる条件」については、評定の数値表現ではなく、文章表現をしてくれる高校の方がよかったと考えている。
- (委員長) その他に何かあるか。
- (伊藤宣委員) 新入試制度の説明会を中学校の教員を対象に4会場で行ったということだが、その折に現場の先生方からどんな質問があったのか。また、理解は得られたという感触なのかをお聞かせいただきたい。
- (事務局) 特に、制度自体に対する問題指摘はなかった。ただし、希望として、郡部は推薦

入試を望み、逆に仙台地区はより明確な形で「出願条件」を打ち出してほしいという意見だった。出願する際に志願者がどのように自分で判断するのか、中学校が評定値をどのように志願者へ伝えていくのか、ということに今後工夫が必要であるという声が聞かれた。

(高校教育課長) まだ選抜概要一覧をご覧になっていない方もいらっしゃると思うので、ご覧いただきたい。2ページ目に最初に白石高校がある。1番が特別活動においてリーダー的な役割を担い顕著な実績や特徴がある生徒。2番においては(1)から(5)のいずれか一つの条件をもっている生徒。さらに3番目として2,3年の全教科の評定が4.2以上の生徒。という書き方になっている。このように何項目かの提示をしながら出願できる条件を設定している。必ずしも学校によって平均評定値を出しているわけではない。8ページ大河原商業を見ていただくと、1から4の条件のうち一つ以上満たしていることになっている。各学校毎に工夫をして「出願できる条件」を提示した跡がうかがえる。

(委員長) それではこれまでの報告事項についてはこれで終えたいと思うが、よろしいだろうか。

では、続いて審議会の冒頭に諮問があった、平成25年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について、まずはじめに事務局の方から補足説明があればお願いしたい。

(事務局) 平成25年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

(事務局より、資料に基づき、内容説明)

(委員長) 事務局の説明について、何かご質問・ご意見等ございましたらお願いしたい。

(伊藤宣委員) 平成25年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の理由書に「私立高等学校の日程も考慮し」と書いてあることに感謝したい。本日を迎える前に公私立の協議会を開いた上での、本日の会議であった。私立学校の願いを伝えてある。2月1日は私立の一般入試の日で、私立としては大変心痛い思いだが、前期選抜は2月初旬にという動き方をずっと示しておられるので、この日程でいくのであろうが私学の痛みを分かって欲しい。

高等学校というのは入学者選抜を行いつつ、18歳の志の実現をさせなければならないというこの1月末2月初めというのは相当ハードな業務の時である。その中で私立学校の入試日というのは厳しい中に置かれたと思っている。ただ、中学校の子供たちの学び、高等学校に進み、その子供たちが21世紀を担う子供たちにするためには、どこかが、その痛みを分かち合いながら、制度をよりよいものに上げていく、実施してみて検証し、育てていくということが大切であると確信している。

(委員長) その他何か意見はあるか。日程については今回決定するわけではない。本日はいろいろな意見を踏まえながら、結論は次回に決めるということでもよろしいでしょうか。

了承

(委員長) 異議がないので、本日の審議は以上とする。では、事務局から何かあればどうぞ。

(事務局) 次回の第2回審議会において、平成25年度入試の選抜方針について、答申を頂戴したいと考えている。第2回審議会については、11月の中旬から下旬くらいを予定している。委員の皆様から本日提出いただいた日程調査表を基に調整したいと考えている。

(委員長) よろしいか。それでは、これで議長の任を解かせていただく。

(教育次長 あいさつ)

閉会